

伊豆新聞

令和5年(2023年)1月19日 (木曜日)

狩野川

三島市に住
む山口東司さ
んは、NPO
法人グラウン
ドワーク三島
(GW三島)

のインスタクターとして市内で環境保護、再生活動を進めるリーダーの1人だ。年齢は80歳。同市ふるさとガイドの会に所属し、伊豆半島ジオパーク推進協議会の認定ジオガイドでもある▼先週から同市大宮町で始まった地下水路の補強工事で、GW三島が県沼津土木事務所、施工業者の加和太建設と話し合い、関係する桜川のミシマバイカモを保護のため一時移植した。ボランティアを続ける住民団体の重要性を認識し、3者がそれぞれの立場を理解して協力した成果だ▼一方、同市内で外国人の日本語教室を開く「あいうえおの会」のスタッフ香川勉さん(73)は、代表を務めるベトナム人女性と共に、年齢や仕事の関係で「いつまで続けられるか」と不安を口にしながら「続けるためには行政の支援が必要」と訴える▼山口さんは、ミシマバイカモやホタルなどの保全には欠かせない存在だ。「今は健康で頑張れるが、いつか引退する時は来る」と話すものの「自分の後継者は3人いる」と笑顔を見せる▼地域のために無償で活動する住民を育てる「土壌」の継続には、行政や地元企業の温かい支えが欠かせない。